

「気候変動適応型社会の実現に向けた技術開発の方向性立案のためのタスクフォース」

第10回会合 議事概要

日時：平成21年12月24日(木) 14:00～16:00

場所：中央合同庁舎4号館4階 共用第2特別会議室

1. 相澤座長挨拶

年末のお忙しいところご参加いただき感謝。最終取り纏めを年末までにまとめることをお願いしていたところ、本日、良い形でまとまったものが出てきている。委員の皆様にご意見をいただき、事務局も努力して、本日の形にまとめることができた。

本タスクフォースの会合としては本日で終了とさせていただき、最終取り纏めについては、多少の修正の必要なところは座長に任せていただきたい。

2. 気候変動に適応した新たな社会の創出に向けた技術開発の方向性(最終取り纏め)(案)について (資料1及び2) 廣木参事官 説明

< 出された主な意見 >

- ・ 1項(3)の注釈や他の同様な箇所で、「効率化」は、何の効率化かがわからないので、「経済効率性」としてはどうか。
- ・ 経済的な効率化だけでなく、エネルギー消費等、モビリティの効率化など様々な要素があるため、「効率化」の前に何もつけていない。それぞれの箇所で適切に対応することにし、ふさわしいところでは「経済効率性」等とする。
- ・ 2項(3)について、不適地に居住することをやめて市街地を狭めないといけないことがある。このため1個目と2個目の間に、「災害の危険、あるいはスプロールにより維持に高コストがかかる地区からの撤退」と入れてはどうか。
- ・ 2項(3)の下にある「半永久的に～」以降の3行は、物的な環境のことであるため、価値観の転換テーマにする(2)へ移すよりも(3)に残した方がよい。その上で、「利用が難しい地域や災害の危険性の高い地域からの撤退」を入れるべき。
- ・ 3.2項の、「グリーン社会インフラの強化」で、「従来の道路・鉄道などモード別の整備を改め、高齢社会に維持すべき集約された都市・農村集落・生産システムを低炭素で利便性高く支えることができる交通輸送システムの再構築」を入れてはどうか。
- ・ 交通輸送システムは重要な分野であるが、前の方にも記載されており、新しい項目をたてるよりも都市のコンパクト化の中に交通ネットワークのことを追記するようにする。新交通の開発や既存交通の組合せ等を3.3項(1)に書く。
- ・ 都市交通だけでなく都市間交通も記載してはどうか。
- ・ 3.3項(1)について、高いクオリティのものが存在しないということが問題であるため、「都市のクオリティストック化とコンパクト化」等、コンパクト化の前段にやるべきことがあることを書いてはどうか。
- ・ 3.3項(1)「新公共交通や既存鉄道道路インフラを連携・転換して統合型交通システムへと再編する。」としてはどうか。
- ・ 3.3項(1)を「一体化して高質化し」に修正してはどうか。

- ・ ロードマップにも、グリーンインフラに「低炭素で利便性が高い交通輸送システム」を入れるべき。また、グリーンインフラかコンパクト都市のところに、都市のクオリティストック化を入れてはどうか。
- ・ 要約の作成を希望する。
- ・ 要約はぜひ必要と考えている。
- ・ 3.2 項(2) の植物工場の表現を「高能率の植物工場の開発」としてはどうか。
- ・ ロードマップの「閉鎖性水域等水質制御技術」について、研究の取組みは既に始まっているため、スタートはもう少し前からでもよいのではと思うが。
- ・ 研究が進んでいることは承知しているが、困難な課題であり、本格化はまだと考えていた。もし本格化をもっと早く行うべきなのであれば前倒しすべき。
- ・ p.16 の表 - 3で、「気候変動予測モデルの高度化」には、「社会経済モデルとの結合」も入れてはどうか。
- ・ 3.2 項(1) で、「気象予測と一体となった」という表現だが、前回TFで気象予測という用語は再考が必要と申し上げた。「気象・水文現象予測と一体となった」と直してはどうか。
- ・ 1項(2)のグリーンイノベーションの定義に関連して提案。IT防災さえできれば温暖化対応できるわけではなく、防災については現在の既存技術を用いていく必要がある。また、農業、都市基盤についても同様に既存技術を用いていく必要がある。3.4 項(2)に、既存技術と新規技術をどう一体化していくか書いていただきたい。
- ・ 3.3 項(2)「IT防災」の かに、「既存の防災技術・システムを拡張・転換させながら、新技術も開発する」ということを記載する。
- ・ 3.4 項(4)「国際連帯」で、アジア太平洋地域を特出ししてはどうか。日本での経験が効果的に活かせ、我が国へのフィードバックもある地域であるため。また、アジアのメガシティではコンパクト化より公共交通整備が必要。
- ・ 1 項(3)には逆に国際的なことしか書いていなかったため、「同時に我が国固有の課題と合わせて」という文章を入れて、本取り纏めでは国内にフォーカスしていることがわかるような書き方とする。3.4 項(4)ではご提案のように補強する。
- ・ カタカナ語を減らして欲しい。クオリティ・オブ・ライフ、マーケット、ビジネス、イノベーター、チャレンジ、エミッション(排出)、ヒートウェーブ(熱波)等。
- ・ 3.4 項(1)で、「社会経済学的アプローチ(社会経済的脆弱性評価・適応策の選択肢検討・決定・実施)」としてはどうか。
- ・ 3.4 項(4)で、「我々が自ら発信する」という意味を含めるため、「気候変動予測及びその影響や適応方策に関する科学的情報・知見を我が国が自発的に発信していくとともに、各国が速やかに共有化、活用できる国際的体制の整備を支援」としてはどうか。
- ・ 俯瞰図の 1/3 「政策的な対応」で、REDD が一番先というのがわかりにくいのでは(国際的な議論において、REDD は、適応策ではなく、緩和策の一つと位置づけられているため。)。また、2/3 「管理・統合化技術」に、我が国の適応技術・適応行動のデータベース化等を入れてはどうか。
- ・ 5 項(1)か(2)に、温暖化影響の情報センター(市民向けの適応策が相談できる場所)を追記してはどうか。
- ・ 情報発信に関しては、従来型でなく新しいリスクコミュニケーションとして 3.4 項(3)に記載している。情報発信を 5 項(1)にも書き込むことで対応する。

- ・ 全体的に、「適応」と「対応」が混在している。対応は、緩和と適応両方を含むと理解している。文脈に照らして、それぞれの箇所ですべて「適応」「対応」のどちらを書くのが適切なものを精査すべき。
- ・ 「世界をリードする環境先進都市」についてだが、本文中では、モデルとして世界に提示することが出てこない。「世界に誇る」に変えてはどうか。
- ・ 「世界をリードする」ことがわかるような文章を追加する。
- ・ ロードマップで、グリーン社会インフラの強化に関し、防災が何か所か出てくる。防災は1カ所にしてはどうか。また、水・緑・エネルギーが同じくらいの比率で項目を出すようにしては、
- ・ ロードマップで、必須基盤技術は予測だけに片寄っている印象。インフラや IT 分野の技術開発はないのか。
- ・ 豊かな緑環境の必須基盤技術として、生態系サービスを高めるための基礎技術を入れてはどうか。
- ・ 例えば、ロードマップに「気象予測と一体となった洪水管理・水防災技術」という項目があり、必須基盤技術の中の予測と対応していると解釈している。そういった対応をわかりやすく示してはどうか。
- ・ 必須基盤技術は、それぞれの分野における基盤技術ではなく、適応を図る上での共通の必須基盤技術であるということを、脚注や説明で示すようにする。
- ・ ロードマップで、国民一人ひとりの価値観・ライフスタイルの変革とビジネスチャンスの創出は、「気候変動の様々なテーマに対応する NPO 支援」や「コミュニティ単位の気候変動対策策定推進支援による民意と政治の相互作用支援」等も入れてはどうか。
- ・ ロードマップで、国際連帯は、「急速な都市化対応のためのデータ収集・モデル分析、制度化支援」や「途上国の緩和策・適応策支援のための財政システム支援」等も入れてはどうか。
- ・ 国民一人ひとりの価値観・ライフスタイルの変革とビジネスチャンスの創出と国際連帯は、本文には対応する「中核となる技術・政策例」がないため、適宜本文の文章から抜き出してロードマップに記載しており、ご意見の反映を検討する。
- ・ 5 項(5)で、CSTP が主導する社会システム改革が記載されているが、ロードマップではそういった CSTP の役割が出てきていない。ロードマップに出すべきでは。
- ・ 5 項(5)だけでは不十分だが、本タスクフォースの最終取り纏めだけが単独で政策の全体構成をしていくわけではなく、一つのステップとご理解いただきたい。CSTP のもとにグリーンイノベーションのタスクフォースを立ち上げる予定であり、政策展開をまとめていく予定。このロードマップは、適応策に力を入れたものであり、CSTP がどうするかを表しきったものではない。
- ・ 本日いただいたご意見については、本最終取り纏めの中だけで解決することが難しい意見もあるため、それらは次の課題としたい。ご意見のとりまとめについては相澤座長のご指導のもと事務局に一任していただきたい。
最終取り纏めを、研究だけでなく社会システム改革につながっていくよう役立てたい。年内の最終取り纏め作成にご尽力いただき、感謝する。

3. 相澤座長まとめ

長期間にわたりありがとうございました。

ロードマップの中央の図について私は最後まで事務局と調整した。対外的説明に役立つ図であると自信を持った。適応策とはダメージに対する修復ではなく、社会経済成長を伸ばせるものだということが凝縮されている。

「世界をリードする」心意気は最後まで持って欲しい。日本国内に閉じこもるのではなく、国際連帯も受け身ではなく日本が国際的に出て行って展開していくべき。

最終取り纏めが作成された現段階で、

「ここで、国は何をするべきか？」

「ここに挙げられたものの優先度はどうするか？ご指摘内容を全て実施する政策はありえない。」

という問いかけが出てくる。ご指摘で重要だったところは、国だけでなく NPO や色々なコミュニティを活用しなければならないということ。これは社会システム改革に織り込まれていることである。

この1枚のロードマップに整理していただいたことに感謝する。

今後についてだが、一つは、グリーンイノベーションのタスクフォースをスタートさせ、本タスクフォースの結果及び緩和策を、施策としてどうまとめるかに着手する。二つめは、社会システムの改革について、来年度の振興調整費のプログラムがスタートする。「気候変動に対応した新たな社会の創出に向けた社会システムの改革」というタイトルで、公募を行う。

半年間でここまでまとめていただいたことにあらためて感謝いたします。

以上